

実施報告書

日系人等を活用した日本語教室の設置運営

1 事業の趣旨・目的

外国人集住率が全国で一番高い町(総人口の16%強)であり、その中でも8割近くがブラジル人という大泉町には、複数のブラジル人学校がある。その一つである「ジェンテミウダ校」には、大泉町内をはじめ、町外・県外からも多くのブラジル国籍の子どもたちが通ってきている。

また、町内には外国人店舗なども多く、日本語を使わなくとも生活できる環境ではあるため、カタコトの日本語や単語のみの日本語しか使えないブラジル人も少なくない。そのため、生活の中でうまくコミュニケーションがとれず、お互いに誤解を生じたり、必要な情報が得られないこともある。

そのような中で、マナーやエチケットを重んじた日本語を学びたい、学ばせたいと考える外国人も出てきている。さらには、最近の経済悪化の中、多くのブラジル人が解雇され、再就職を希望しても日本語能力が無いと面接にも繋がらないといった現実と直面し、多くの外国人が日本語の必要性を痛感するなど、日本語学習に対するインセンティブも高くなってきている。

そこで、日本の歴史や文化をはじめ、生活上のエチケットやマナーなどをポルトガル語で伝えるとともに、ブラジル人に「きれいな日本語」を教える。単なる「語彙」ではなく、丁寧な日本語を覚えることで、日常生活においてスムーズなコミュニケーションができ、更には安定した就労にも繋がる語学力を育てることを目的に、日本語教室を開催する。

2 運営委員会の開催について

開催日時	議 題
第1回 平成21年1月10日(土) 午後1時～午後4時	① 外国人に関する地域の状況について ② 事業の進め方について ③ 教室の周知方法等について
第2回 平成21年2月14日(土) 午後1時～午後4時	① 日本語教室各授業の見学と検証 ② 日本語教室の状況について ・ 受講者、講師、授業の内容など ・ 授業を実施している中での課題など ③ これからの進め方について
第3回 平成21年3月14日(土) 午前11時～午後4時	① 事業の効果と課題について ② 受講生からの感想を受けて ③ 今後の日本語教室のあり方について

2 事業について

ブラジル人にとって、参加しやすい日本語教室とするため「アミーゴ ド 日本語」という教室名を付け、事業を実施した。

学習成果として期待するものとして「丁寧な日本語を使ったあいさつや日常会話をはじめ、地域で生活するために日本人住民と円滑なコミュニケーションがとれるようになる」「日本の文化や歴史などを学ぶとともに、習慣や地域のルールなどが理解できるようになる」「日本語を学ぶことで、地域の日本人住民とのパイプ役になれる人材を育てる」という3点を目標に掲げ、地域に住む日系人を教授者及び補助者として活用した。

●開催に当たって

- ・「集中コース(1月の外国人学校自体は休みの期間である)」として、月曜日から土曜日の午前と午後の各2時間を、「初級(大人、子供)」「中級(大人、子供)」クラスとしたが、実際には多くの「初級クラス」のブラジル人が日々、参加申し込みに来たため、クラスを複数に分けるなどをして、指導に当たった。
- ・「コツコツコース(2月、3月の午後)」として、月・水・金曜日の週3回を予定していたが、日本語学習ニーズが高いことから、月～金の毎日1時間の教室運営となった。

●特徴的な授業

- ・日本の童謡を用いた授業
子どもも大人も、日本の童謡などを用いて、歌の意味なども説明しながら、楽しく学習が続けられるような工夫も取り入れた。
- ・ネイティブな日本語会話
地域の日本人とコミュニケーションがとれるよう日本語に慣れるため、グループに分かれて日本人と会話学習を実施した。
- ・生活に密着した日本語
郵便局や銀行、役所、病院など、さまざまな生活の場面を想定した日本語会話を学習した。子どもにおいては、手作りの学習資材での「お店屋さんごっこ」などを実施し、生活に密着した日本語学習を実施した。
- ・日本と日本語への理解
日本文化や日本の歴史、日本語の成り立ちなどをポルトガル語で紹介することで、日本や日本文化、習慣に対する理解が深まった。
- ・ていねいな日本語の必要性
地域の日本人と円滑なコミュニケーションがとれるよう、「なぜ、ていねいな日本語を使ったほうが好ましいのか」等を、母語で説明することで、単なる語彙だけでなくきちんとした日本語を話す必要性を理解することができた。

■授業写真



△2月14日 日本語教室（集中コース）授業風景



△2月14日 「日本人と日本語で話をしてみよう」



△2月14日 授業風景（子ども集中コース）



△2月21日 集中コース授業風景



△3月14日 日本語学習成果発表
「日本語で感想を言います」



△3月14日 日本語学習成果発表
「日本の歌を歌います」

3 事業の成果と課題

(1) 成果及び評価

- ① 地域の特徴(日系人の集住地域)を活かし、ブラジル人学校で日本語教室設置したことは、初めて日本語を学ぶ受講者にとっても学習に参加しやすい環境を提供したと思われる。
- ② 短い準備期間にも関わらず、授業担当者たちの「日本語を教えたい」という熱意が授業計画、及び、運営に大いに役立った。
- ③ 本事業ではポルトガル語母語話者の教師が日本語の指導にあたった。日本語のよる直接法の授業ではなく、受講者の母語を活用した今回の試みは日本語教育の在り方を模索する良い機会となった。
- ④ 経済の悪化から日本語を学びたいと日本語教室を訪れる受講者が日に日に増加した。学校側は訪れてきた受講者一人ひとりの現状をアンケート調査し、授業に参加できるように配慮した。
- ⑤ 授業担当者は日本語教育のプロパーではないが、今回の事業で日本語教育に対する考え方などが大きく変わっていくのがわかった。特に、日本語能力があまり高くない教授者に関しては自ら日本語を学ぶ姿勢が見られるようになった。
- ⑥ 受講者の中には毎日授業に参加し、熱心に学習に取り組む者もいた。多くの外国人住民が今まで日本語の学習にそれほど時間を割いてこなかったことを考えると大きな変化であると思われる。

(2) 課題

<日本語教育の必要性>

この地域では1999年の入管法改正以降、出稼ぎを目的とした多くの日系人が定着している。来日してから地域のルールなどを巡り様々な問題が指摘されてきたが、外国人住民は地域にとけ込もうとする姿勢はあまり見られず、翻訳や通訳で対応せざるを得ない状況が続いていた。一方、外国人住民が日本語を学び地域社会へ参加しようとしても、どこに行っても、何を学べば良いのかははっきりしていなかったのも事実である。今回の事業で集まった受講者の熱心さを見る限り、彼らに合った日本語教育の必要性があると思われる。

<日本語教育の在り方>

①「教授内容の明確化(何を教えれば良いか・何を学べば良いか)」

外国人住民に必要とされる「生活のため日本語」は未だその内実が明らかにされていない。現在は教授者側の独断で学習内容が組まれているが、その学習項目はいわゆる留学生向けのものがほとんどである。今後、大規模な目標言語調査や教材開発を行っていく必要がある。

②日本語での教授(直接法)の見直し

この地域は日本語を習得している日系人も多く在住している。彼らによる日本語の教授が可能になれば生活に必要な概念などを母語で伝えることができ、学習時間の短縮や学習者への心理的な負担も軽減することができる。日本語教育を日本人教師のみに頼らずに、外国人の日本語教師の育成の可能性も視野に入れて取り組んでいく必要があると思われる。

4 受講者からの意見や感想

- ・ 日常会話に必要な日本語をたくさん覚えることができた。
- ・ ポルトガル語による補足説明もあり、日本語の背景などがよくわかった。
わからない単語なども、十分理解できた。
- ・ 基礎、基本の日本語を学ぶことができた。
- ・ 経済的に大変な中で、無料で日本語を学ぶことができ、有り難かった。
- ・ 詳しく細かく日本語の意味を説明してもらい、よく理解できた。
- ・ 次回は漢字の勉強に力を入れたい。
- ・ 文章の並び、数字の使い方、動詞などがよく理解できた。
- ・ 日本語を覚えると同時に、日本の文化や習慣なども習得できた。
- ・ 短期間だったが、日常生活に少しずつ役立つようになった。
- ・ さらにステップアップするための講座も続けてほしい。
- ・ 地域の日本人と会話ができるようになった。
- ・ 会社と習った日本語と違い、ていねいな日本語を教えて頂いたので、上司とスムーズに会話ができるようになった。
- ・ 片言の日本語しかわからなかったが、会話として成り立つようになった。
- ・ 日本のマナーと面接の際の基本的な日本語質疑などが理解できた。
- ・ 自分の住所などが書けるようになった。
- ・ 日本語で話す自信がついた。
- ・ 日本語での挨拶などができるようになった。
- ・ 今まで使っていた日本語の間違いなどがわかり、修正することができた。

5 まとめ

経済悪化の状況下で「日本語を学びたい」という意識が高まり、予想以上に参加者が多かった事業であった。より多くの学習希望者を受け入れたいという思いから、途中参加も認めていたが、学習場所と教授者の不足及び学習の進行に弊害が出る恐れがあるため、申し込みを断ざるを得なかったが、在住外国人の方々からの日本語学習ニーズを実感した。

また、学校に通えない子どもたちの「居場所づくり」と「日本語学習の場」の両面を兼ねることもできた。さらには、本事業で学んだ日本語が、就労につながったという報告も寄せられている。

しかし、短期間での語学習得は、誰にとっても何語でも多大な努力が必要とされ、授業のみならず、ある程度時間をかけての自己学習が不可欠である。授業以外での自己学習を促す、自主的に学習するための動機づけになるようなしくみがあると、より効果的ではないかと思われる。